

2011.08.24：平成23年 区民環境委員会

○委員長

ただいまから区民環境委員会を開会します。

○委員長

初めに、理事者のごあいさつをお願いします。

○資源環境部長

皆さんおはようございます。昨日に引き続きまして、誠にご苦勞さまでございます。

本日は、所管の報告事項として3件の報告をいたします。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。

○委員長

次に、署名委員をご指名いたします。

天野久委員、すえよし不二夫委員、以上お二人をお願いします。

○委員長

それでは、議題に入ります。

初めに、板橋区国際化の現況についてを議題といたします。

本件について、理事者より説明願います。

○文化・国際交流課長

おはようございます。トップバッターの報告ということでお願いいたします。

ちょっと鬼のかくらんではないですけども、風邪を引きまして、声がふだんよりももっと聞きづらくなっていると思っておるんですけども、どうぞご容赦いただきたいというふうに思います。よろしくをお願いいたします。

それでは、お手元にペーパー1枚の資料1、板橋区国際化の現況についてという題のペーパー1枚とピンクの表紙がついてございます板橋区国際化の現況というものを配付させていただいてございます。本体のほうは、そのピンクのほうは、ペーパーの説明にあわせまして、関連事項についてご紹介をさせていただきたいと思っております。ページをめくっていただきますなど、お手数をおかけいたしますが、どうぞ協力のほうよろしく願います。

それでは、ペーパー1の板橋区における国際交流でございます。

板橋区では、世界平和に寄与するという理念のもと、海外との交流事業、また外国籍区民を含むすべての区民が安心して暮らせる町、すなわち多文化共生の町を目指しまして、同趣旨で設立されております。私どもが、区のほうが事業運営費を補助しております財団法人板橋区文化・国際交流財団とともに、さまざまな事業を展開してございます。このピンクの本体のほうは、年に一度区のほうで発行させていただいております冊子でございます。

それでは、早速、そのピンクのほうの板橋区の現況のほうをあけていただきまして、目次の次の1ページになりますけれども、こちらのほうに国際交流事業全体の体系図ということで、事業の全体像を記載させていただいてございます。見ていただくと一目瞭然なんですけれども、区の事業といいますと、上のほうに少し記載があるだけで、事業のほとんど多くの事業を財団さんのほうに担っていただいているということでございます。

続きまして、ページを開いていただきまして、外国人登録の方の現況ということになります。

外国人登録者数の現況ということでございますけれども、真ん中に表を載せてございますけれども、推移を示してございます。一番右の合計のところを見ていただくとわかるんですけども、下のグラフもあわせて見ていただくとわかりやすいと思っておりますけれども、ずっと右肩上がり外国人登録者のほうは増えてございます。

1997年以降2007年に続いて今回2度目の減少となりましたけれども、2011年4月1日の合計数が1万8,355名の方ということになってございます。

登録者の方で、国別で申しますと、中国籍の方が一番多いということになっております。ただ、直近の数字でいきますと、ことしの8月1日の現況ですけども、合計が1万7,744人ということになってございます。大幅に減少してございます。ただ、構成としては変わりませんで、中国籍の方が8月1日現在で9,859名ということで、全体の55.56%を占めているということでございます。

この削減の理由につきましては、私どもといたしましては、東日本大震災の影響ということで、ご帰国をなさっている方が多くて、その影響を受けているというふうに分析をしているところでございます。

ちなみに、私どものこの板橋区におきましては、8月1日現在では、全体のパーセンテージでいきますと3.31%ということなんですけれども、23区の区部全体で人口に比して住民記録台帳数の総数に対しての外国人登録者数の割合ということですと、23区の区部では3.84%というふうになってございますので、板橋区といた

しましては、23区の中では平均的な数値かなというふうに思っています。23区の中で一番割合が高いのは新宿区で10.49%、31万7,985人という人口総数に比しまして、3万3,352人の外国人登録の方がいらっしゃるということでございます。

また、外国籍の方の構成なんですけれども、私どもの板橋区では中国籍の方、韓国・朝鮮の方、フィリピンという形で多い順番になっているんですけれども、ちょっと各区ではばらつきがございまして、今申し上げました新宿区では同じような傾向ですけれども、例えば江戸川区ですと、こちらのほうですと、インドの国籍の方が多いということになっております。ちなみに、江戸川区の外国人登録数の割合は3.69%ということで、板橋区と変わりはございませんので、やはり地域別によって特色があるというふうに思っております。

続きまして、ペーパーのほうに戻っていただきまして、ペーパーの2ということになりますけれども、板橋区が提携を結んでおります諸外国の名前のほうを、そちらのほうに挙げさせていただいてございます。

提携等の経過につきましては、このピンクの国際化の現況の6ページから7ページに、経緯につきましては詳しく載せさせていただいているところでございます。また、これまでのいろいろな交流の足跡が16ページから31ページに詳しく載っておりますので、後ほどお読みいただければありがたいというふうに思います。

このピンクのほうの本体のほうに、31ページから少し戻っていただきますけれども、7ページから12ページまでが、板橋区の区の中で、区の所管の中でどのような国際交流に関する事業をやっているかというものの一覧を載せてございます。

それから、13ページをごらんいただきたいんですけれども、13ページからは先ほど申し上げました板橋区文化・国際交流財団の事業のほう載っております。

15ページのほうを開けていただきたいんですけれども、ここにこの財団の本年度の事業予定が掲載してございます。もう既に実施済みというものもございまして、その真ん中のところですね。2号事業というところがありますけれども、板橋区が行った海外都市との姉妹都市提携に基づく事業推進ということがございまして、その下から資料の丸の2番目ですけれども、ことしはモンゴル国との交流15周年の年に当たります。財団のほうとモンゴル国15周年記念事業ということで、区民訪問団、区民ツアーというものを主催していただきまして、そちらのほうの派遣をしていただいております。

つい先日、こちらのほうは実施されました。今回のこの訪問に際しては、15周年ということでございますので、区長の親書とこのたびの東日本大震災における被災者支援といたしまして板橋区教育委員会が募集いたしました学用品のうち、被災地の提供し切れないものうち、鉛筆等筆記用具、ノートをモンゴルの児童・生徒に贈呈するために、財団のこの区民ツアーに持参していただきましたので、その報告も受けてございますので、その区民ツアーの概要をお伝えしたいというふうに思います。口頭でお伝えいたします。大変恐縮ですけれども。

こちらのほうは、実施いたしましたのは、先月の7月27日から8月1日までの5泊6日でございます。

行っていただきましたのは区民の方、在勤を含みますけれども20名の方、小学生4名、19歳の方1名、5名、それで大人といいますか、成人された方15名という20名構成になってございます。それに旅行会社の添乗員が1名、財団の職員随行が1名ということで、派遣をやらせてございます。

主な内容ですけれども、現地では、教育・文化・科学省の表敬、当財団、板橋区文化・国際交流財団が奨学金を支給している大学生との交流ということでございます。また、児童養護施設である教育作業センターを訪ねまして、そこの子どもたちとの交流会などをしてございます。その際に学用品などの贈呈等をしているところでございます。また、この学用品につきましては、文化科学省を訪ねた際に、一部はこの教育作業センターに贈呈を

させていただいたんですけれども、残りについては、この文化科学省の副大臣の方が責任を持って児童・生徒に配布していただけるということを約束してくれたというような報告を私のほうで受けているところでございます。

区民ツアーについては以上なんですけれども、私どもこの15周年記念ということで、これからこの財団と区と共催ということでイベントを企画してございます。それがペーパーのほうですね、3番になりますけれども、平成23年度板橋区及び財団法人板橋区文化・国際交流財団共催事業ということでございます。

事業名は、板橋区・モンゴル国交流15周年記念「モンゴルフェア2011」ということで、まだ仮称でございますが、こういうものを企画してございます。

目的といたしましては、文化・教育交流協定15周年を記念してモンゴル国の文化やこれまでの交流の経緯を紹介するイベントを開催し、同国に対する区民の理解を深めるとともに、交流の推進を図るということでございます。

日時が、ことしの11月3日祝日の日を予定してございます。11時から17時までということで、会場といたしましては、グリーンホール1階・2階のホールで行いたいというふうに思っております。大山公園でも、ちょっとお借りいたしまして、こちらのほうでは体験コーナーということで、ポニーによる乗馬体験をしていただくというふうに企画をしているところでございます。

重なりますけど、内容になりますけれども、セレモニーということで区長等のあいさつをお願いしておりますし、コンサートでは馬頭琴とかいろいろな音楽の形とか、あとお相撲とか、そういうものを企画しております。展示につきましては写真展、いろいろな友好協会等々からお借りしたものを展示していただくというふうに思っております。物販のほうもさせていただく予定になってございます。

あと先ほど申しおくれましたけれども、区民ツアーにつきましては「広報いたばし」、ホームページ等で募集をかけまして、20名の方を募集いたしましたけれども、財団のほうに申すには、ありがたいことに20名の方を超えましたので、抽選をさせていただいたということでございます。

また、今回の11月3日のイベントですけれども、こちらのほうも今後「広報いたばし」、ホームページ、あるいはチラシなどを作成いたしまして、広報活動に努めてまいりたいというふうに思っているところでございます。先生方もお時間がございましたら、ぜひお立ち寄りいただければありがたいというふうに思っております。

ちょっと最後は番宣といえますか、宣伝になってしまいましたけれども、以上で私のご報告のほうを終わらせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長

ただいまの説明に質疑のある方は挙手願います。

○はぎわら洋一

ちょっと確認。6ページにモンゴル国の中で、1999年以降、路上に放置された自転車200台を再生し、ウランバートル市へ寄贈する事業を毎年実施してきたと。この自転車分解作業には、区内中学生がボランティアとして参加している。これは今でも、トータルで1,000台を超えたとか、幾つになっている、毎年これが続けら

れていくのかとか、そういうのは具体的にどういう方向性になるのか。今後ともこういう形で進められるのかどうか。

○文化・国際交流課長

自転車につきましては現在、財団のほうではやっておりませんというふうに報告を受けてございます。

この自転車の譲与につきましては、土木部の交通対策課のほうでやっていただいたんですけども、平成19年に、このリサイクルの自転車譲与については、なかなかモンゴル国とのご要望、要するにマッチングですね。向こうで何が、支援をするときに何がご入り用ですかという中でいうと、なかなかそのマッチングにそぐわなくなってきたということで、こちらのほうのリサイクル自転車の譲与ということについてはやめますという形になっておまして、モンゴルの支援という形になりますと、区が行うと、予算化をして行うということではなくて、財団のほうに移管をしてやっていこうということで、現時点におきましては、奨学金を財団のほうで、先ほど申し上げました国立大学、人文大学というところですけども、そちらのほうに奨学金制度をつくって、そちらで支援をしているというようなことが今実際行われている事業でございます。

○はぎわら洋一

それは今までこの自転車は何台って、その奨学金は幾ら、毎年というのは、その辺の具体的なことはわかりますか。

○文化・国際交流課長

すみません、自転車の台数につきましては、確認をさせていただきたいというふうに思います。

奨学金につきましては、10万円ということでございます。お一人10万円で8人ということで、80万ということで財団のほうで予算といいますか、手続をとっていると、事業をしているということでございます。

○はぎわら洋一

そうすると、国際交流財団で予算をとっているのね。それで、日本語学校というか、わからないけど、その奨学金。これ向こうで勉強している人だけ、日本に来た人じゃなくて。向こうで日本語を勉強している8名、優秀な学生8名に、年間10万だと生活というか、できるのかな。行けるのかな。

○文化・国際交流課長

こちらの10名につきましては、日本語学科の学費相当分ということになってございます。

日本語学科の学生さんには、やっぱり報告をしてもらっていますので、文化・国際交流財団のホームページのほうで私は見ますけれども、日本についての奨学金についてのお礼ですとか、このくらい勉強が進んでいますよというようなことの作文を送ってきてもらっていますので、それを掲載しておりますので、お時間ありましたらご覧いただければというふうに思います。

○委員長

次に、第40回板橋区民まつり開催概要を議題といたします。

本件について、理事者より説明願います。

○くらしと観光課長

それでは、今年度の板橋区民まつりの概要がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

この概要は、これまでに6月13日に第1回目の実行委員会が開かれました。続いて、7月に第1回目の検討委員会を開催いたしまして、各委員さんから積極的なご意見をいただきまして、その内容を加味しまして策定されたものでございます。

なお、実行委員会というのは、区民まつりの内容を最終的に決定する機関でございまして、主に関係各団体の会長さんによって組織されるものでございます。また、検討委員会につきましては、関係各団体の事務局長さんなど、直接実務に携わる方々に集まっていただきまして、実務的な部分を調整する機関ということでございます。

さて、ことしで第40回目を迎えます板橋区民まつりでございますけれども、先に資料の4番になるんですけども、本年度のテーマを「日本を元気に！魅せます いたばしの底力」と題しまして、東日本大震災で被災された方々に対しまして、早期の復旧と復興を願うとともに、板橋から「いたばしの力」ですね、「いたばし力」を全国に向けて発信することによって、日本を元気にしたいと、そういう思いを込めて実施していきたいと考えております。

まず、開催の日時でございます。

10月15日土曜日と16日日曜日の2日間ということになります。時間につきましては、土曜日が午後1時30分から夕方の5時までですね。日曜日につきましては、午前10時から夕方の4時30分までということになっております。

なお、土曜日につきましては、終了時間を例年よりも1時間早めております。これは今全国的に節電に向けて皆様方努力している状況でございますので、使用電力量をできるだけ控える目的で、照明が多く必要となる時間帯を短縮した次第でございます。

次に、会場でございます。

グリーンホール前の道路と、その周辺ということになっております。

昨年との変更点でございますけれども、ご存知かと思いますが、東京都の福祉保健局、旧養育院病院ですね。こちらの構内が大規模な工事に入っていると。その影響がございまして、区民まつりの会場が大幅に縮小せざるを得ない状況でございます。そんな中、東京都のご配慮がありまして、福祉保健局の駐車場、今あるんですけども、そこを利用していいということと、あと都税事務所の前の駐車場ですね。こちらも新たにお貸しいただけるということになっております。また、板橋第一中学校の隣にありますJTの社員寮の跡地があるんですけども、こちらも日本たばこ産業さんのご好意によりまして、跡地の中庭ですね。そちらをお借りすることができることとなっております。この新たに確保できた会場につきましては、後でどういう形で利用するかということをご報告いたします。

区民まつりの会場としましては、このようにふえた部分もあるんですけども、工事によって減っている部分のほうはかなり多いということで、全体的には縮小せざるを得ない状況がございまして。そのため出店数を減らしたり、大きいテントで出店していた方に、小さいテントに変更していただくなどの工夫をしながら、今年度実施していくということになってございます。

交通規制につきましては、資料のとおりでございます。開催時間帯の前後プラス30分から60分の間で交通規制を実施するという計画となっております。

まず、グリーンホール前の道路におけます、おまつりひろばの主な演目のご説明をいたします。

資料に書いてあるとおりなんですけれども、昨年との違いが、土曜日の午後2時15分から予定されております岩手県の奥州市からお招きいたしました江刺鹿踊りでございます。「鹿踊り」と書きまして「シシオドリ」と読むということでございます。この踊りは、主に宮城県の北部から南部にかけて、郷土芸能として伝承されてきた踊りでございまして、この東北の伝統的な踊りを板橋で披露していただくということによりまして、頑張っている東北の力強さをアピールしていただければと考えております。

あと、出店関連の大きな変更点なんですけれども、板橋第一中学校の校庭に、買い物と交流のひろばというのがあるんですけども、そこに震災復興支援コーナーを設置いたしました。特に被害が大きかった岩手とか宮城、福島を中心とした地域の特産品を販売することによって、少しでも東北の支援につながればと考えて実施いたします。

現在、出店を予定しているところなんですけれども、まず宮城県人会の皆様方と宮城県からあとは気仙沼市と女川町、あとは福島県からはいわき市、岩手県からは奥州市、陸前高田市、そして大船渡市、もしくは宮古市ということで、計画のほう調整を進めているというところでございます。

資料の裏面にまいりますけれども、新しく会場となりますJT社員寮の跡地なんですけれども、こちらは買い物と交流のひろば2)といたしまして、都市交流の物産展とか、区民参加の出店を中心に行ってまいりたいと思っております。

また、福祉保健局、旧養育院の駐車場なんですけれども、こちらはふるさとひろばといたしまして、県人会の物産展を移設して行いたいと考えております。

資料の下のほうにいただきまして、（10）ですね。特設ステージということなんですが、都税事務所の前の駐車場、ことし新たにお借りすることができているんですが、ここでは特設ステージとしまして、新潟県の妙高市との都市交流事業でもあるんですけども、コシヒカリの俵上げコンテストを行っていきたいと考えております。

今後のスケジュールなんですけれども、8月30日、来週ですね。火曜日に第2回目の検討委員会を実施いたします。ここで区民出店者とか、区民出演者の決定をいたしたいと考えております。そして、9月中には警察等関係団体との調整、あとは出店者、出演者の皆様方の打ち合わせ会を実施してまいりたいと考えております。

最終的な内容につきましては、10月11日に第2回目の実行委員会を経て全体の概要が決定しまして、区民まつり当日を迎えるというスケジュールとなっております。

報告は以上となります。よろしくお願いいたします。

○委員長

ただいまの説明に質疑のある方は挙手願います。

○はぎわら洋一

去年区民まつりをやって、ことしは震災があって花火大会を中止にしたと。そのかわり区民まつりを大々的にやりますから皆さん期待してください、こういうふうには区長は言ったんだよね。その大々的にやった、これ去年と、逆に制限ね。福島のことがあったことによって電力量が足りないから、1時間前倒しでやめるというような、内容が濃ければいいんでしょうけど。それで聞いたら、江刺の鹿踊りを入れるから期待してもらいたいと。もう少し何かガツンと区民に訴える、これ前の、去年と同じじゃないのという気もしないでもないんだけど。

これは僕ばかりじゃなくて、実は飯田さんから、飯田さんなんて言っているのかな、はぎわらさんしっかり確認しておいてくれと。だから確認しますよ。どういうふうで大々的にやるのか。目的は「日本を元気に！魅せます いたばしの底力」というふうに言っているんだけど、これは難しいと思うんだけど、この辺検討委員会でもまた詰めると思うんだけどね。その辺これで感ずる。

○くらしと観光課長

大々的にということでございます。ことしの区民まつりの目玉と申し上げますか、先ほど申し上げました震災の復興支援コーナー、こちらのほうを大々的に考えたイベントと私どもはとらえておりまして、間口にしまして、非常に大きい20メートル掛ける10メートルというかなり大きいテントを張りまして、そこで物産展を実施

するという事ですので、今まで使ったことのないような大きいテントを構えまして、実施したいと考えているところでございます。

それとまた岩手県からの鹿踊りですね。こちらのほうも皇居の前で実際に演舞をするような非常に完成度の高い踊りで、また歴史的なものもありますので、なかなか自治体のお祭りに招聘して踊っていただくということもなかなか難しいと思っています。これが実現に向けて調整できているということは、ことしの目玉であると、私のほうもとらえております。

ただ、会場が狭くなってしまっているということと、あと予算の関係もございますので、その調整を図った中で最大限の目玉ということが今申し上げたとおりでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○はぎわら洋一

期待します。だけど、昨年金沢の獅子踊りだつてすごかつたよ。金沢市から来たね。それを超えるんだらうなという。僕だつて田舎の、吾妻町の獅子舞、無形文化財、僕だつて踊れる。それだつて調整してもらえればやつてやろうかなという気持ちがあるけど。本当、区長というか、これちょっと愚痴になつちゃうかもしれないけど、花火大会つて約1億ぐらにかかっているでしょう、が一んと。

(「8,000万」と言う人あり)

○はぎわら洋一

8,000万か。

(「5,000万」と言う人あり)

○はぎわら洋一

5,000万余ね。それをやめましたと。だから、今度は区民まつりを皆さん期待してください。4,000万かけるとは言わないけどさ、その辺の何かがつんというのが欲しいね。

(「最後に花火をやるでしょう」と言う人あり)

○はぎわら洋一

花火、ここではやらないと思うんだけど。火薬のほうではちょっと厳しいと思うんだけど。その辺ちょっと検討を。飯田さんからもその辺ガツンと突っ込まれると思うので、ちょっとやっておいたほうがいいんじゃないかなと思います。

○くらしと観光課長

ガツンと何か目につくものということなんですけれども、今調整できている内容、これをまたできるだけインパクトがあるような広報の仕方とかもあると思いますので、区の広報紙の内容も検討して、花火がなくなった分、祭りは盛大だなというイメージがつくようなPR方法もあわせて検討できればと考えておりますので、よろしくお願いたします。

委員長

以上をもちまして区民環境委員会を閉会いたします。